

引き算の生き方 足し算の生き方

私の友人で、中学校に勤める前に高校で数学を教えていた先生がいます。その友人の経験談です。

彼が勤めていた高校は荒れていました。数学の時間、授業が始まっても、数学教室に誰も来ません。(この高校は理科室や音楽室と同じように数学教室があるのです) 彼がホームルームに生徒たちを呼びに行くと、廊下の向こうから耳などにピアスをつけた生徒たちがのろのろと歩いて来るのです。生徒たちは筆記用具を持たず、ほぼ手ぶらで来るので、彼は鉛筆や消しゴムを人数分購入しておき、いつも貸していました。でも、授業が終わると鉛筆は折られていたり、歯形がついていたりすることがたびたび。授業が分からないと、大声を上げて教室を歩き回ったり、大きな生徒に後ろからつかまれ、殴られそうになったこともありました。彼は生徒たちを嫌っていたわけではありませんし、生徒たちが彼を嫌っていたわけでもありません。真面目に授業に取り組むこともありました。なついてくる子もたくさんいました。

けれども、1ヶ月、2ヶ月とその高校で過ごすうちに、嬉しい気持ちよりストレスの方が大きくなっていきました。彼はその高校に1年間という期限付きで採用されていました。つまり、1年たてばその高校を去ることができるのです。「あと6ヶ月、あと3ヶ月、あと1ヶ月…」学校を去る日までのカウントダウンが、彼の心の中で始まっていました。

ある日、学校に「数学科、担当様」と書かれた1通の封筒が届きました。「数学検定」の案内でした。「この高校で、数学に興味を持っている生徒がいるわけがない」と封筒を捨ててしまおうかとも考えたようですが、考え直し、生徒たちに案内しました。その日の放課後、1人の女子生徒が「先生、数学検定を受けたいんですけど…」と職員室にやってきました。次の日、さらに2人の生徒が数学検定を受けたいと申し込んできました。この日から、放課後、3人の生徒との数学の学習会が始まりました。

内心、この3人が合格するのは難しいと思いました。買ってきた問題集を見ても、3人には難しい内容だと感じたからです。しかし、数学に興味を持っている生徒がいるという事実が、彼にとってとても嬉しいことだったのです。3人のためにできるだけことはしようと心に決めました。

この高校を去るまであと6ヶ月、あと3ヶ月、あと1ヶ月という「カウントダウン」がいつの間にか消えました。その代わりに、今日1日を生徒と一緒に、精一杯積み上げながら生きていこうと「カウントアップ」の生き方に変わっていったのです。荒れた高校に赴任して1年が経とうとしていた頃、数学検定を受検した3人の結果が送られてきました。3人とも「合格」していました。友人も頑張りましたが、何より3人が精一杯努力したからです。

以上が私の友人の経験談です。

人には二通りの生き方があります。「ひき算」の生き方と「たし算」の生き方です。

学校生活でよくある風景では、

- テストで平均点より〇〇点低い、ショック！…。
- 早く授業終わらないかなあ。あと10分、あと5分…。
- ダッシュきついな、あと5本早く終わらないかな…。

こういう人たちは「ひき算」の人生を送っています。他の人との差ばかり気にしています。嫌なものから逃げたい一心でカウントダウンを始めます。

それとは別に、次のような人も周りにはいます。

- テストに向けてたくさん勉強した。努力した。自信がある。
- 大会に向けて今日も明日も素振り200回。
- 〇〇君より、一本でも多くサーブの練習をしてやろう。

これが「たし算」の生き方です。今より3分後。今日より明日。ほんの小さな進歩かもしれない。失敗するかもしれない。でも、一生懸命に努力しています。

ひき算で生きている人間。逆に、1日ずつ積み上げてたし算している人間。

同じ人間でも、その成長の仕方は全く違ってきます。

単なる「プラス思考」というと楽観的な考え方に聞こえます。大事なことは、1つのことでもいい、小さな努力でもいい、積み上げると百にも二百にもなる「たし算の生き方」をして欲しいと思います。



職員自己紹介パート9

個人情報保護の観点から、HP 上では氏名は伏せております。

ご了承ください。